

ある水族館で、人魚と間違えられた生物であるじゅごんが飼育されています。このじゅごんは同じプールで暮らしている海がめをととても気に入っているようです。一緒に泳いだり、背中や頭を押しつけてふざけ、困らせたりします。時には、だっこしたりと仲のよい二匹です。かめも海草を食べるのですが、嫌がることなくお互い顔をくっつけて食べています。

ある日、えさの量を確認するため、かめを別の水槽に移しました。しかし、その日からじゅごんは突然元気を失ってしまい、肝心なえさを食べなくなってしまったのです。あまりにも食欲のない日が続くので、飼育係は慌ててかめをプールに戻してあげました。すると、すぐに元気になり、たくさん海草を食べ始めました。

動物に感情はあるかという話になってしまいますが、少なくともじゅごんには、別の種類の生き物をかわいく思う気持ちがあったのでしょうか。また、感情によって体調を崩すことがあることも分かりました。このじゅごんにとって、このかめは、かけがえのない存在だったのでしょうか。